

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成24年 6月	
学年： 2年 1組	教科：数学科
単元名：連立方程式	
ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
連立方程式の解法（加減法）	
単元全体の流れ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の把握</li> <li>・ 自分の考えをまとめる</li> <li>・ 発表</li> <li>・ 質疑</li> <li>・ 他者の考えを理解する。</li> <li>・ 多様な考え方で特方法について理解する。</li> </ul>	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
連立方程式の解法について理解する。 ・ 効率よく回答する方法について理解する。	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input checked="" type="checkbox"/> 教員 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示 <input checked="" type="checkbox"/> 動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input type="checkbox"/> 教員の説明 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
デジタル教材 文部科学省「生徒用デジタル教材」 啓林館「指導者用デジタル教科書」 教具 あひる20匹、魚10匹の人形、籠2個	
活用した機器	
<input checked="" type="checkbox"/> IWB <input checked="" type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他（ ）	

## 1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
(導入) 前時の復讐 (本時) 課題 課題の理解 発表 質疑 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教具（あひると魚）を使用し課題の理解をすすめる。</li> <li>・ IWBに課題を表示する。</li> <li>・ 各生徒のTPCのデジタル教材に考え方を記入する。</li> <li>・ 生徒のTPCからIWBへ画面転送し、デジタルペンを使い前で説明する。</li> <li>・ 聞く側の生徒から内容について質問をする。</li> <li>・ いろいろな考え方について理解をする。</li> </ul>	教具 デジタル教科書 IWB TPC デジタル教材 IWB TPC

## &lt;協働学習の実施状況&gt;

- 生徒が相互に教え合う場面があった     数名が一緒に学び合う場面があった  
 数名が協力したり助け合ったりする場面があった     数名が話し合う場面があった  
 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった  
 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった  
 ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

## 2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

## (1) 活用のねらい

- ・ 課題理解の助け。
- ・ 自らの考えをデジタル化し、IWBで他者共有し、多様な考え方ができるようになる。
- ・ 自らの考えをデジタル化し保存することで振り返りの学習を可能とする。

## (2) 活用により期待される効果

- ・ 多様な考え方の習得。
- ・ 他者との考え方の共有。
- ・ 教員は、学級の生徒のさまざまな考え方の保存及び分類が可能となる。
- ・ IWBへのTPCからの画面転送機能により、素早く発表準備に入ることができる。

## 3. 実践上の課題

- ・ 生徒用にデジタル教科書の記入欄が小さく、記入しづらい。
- ・ 数学では、表が小さすぎて数字を記入することが難しい。
- ・ デジタル教科書では、2つの表を比較したい場合、表の欄が違っていると比較することができない